

令和
7
年度決算



グラフと写真でみる
まちの決算と
財政状況

北海道栗山町

もくじ



グラフでみる決算概要

○全会計の決算概要と推移	2
○一般会計の決算概要	4
○国民健康保険特別会計の決算概要	6
○北海道介護福祉学校特別会計の決算概要	7
○介護保険特別会計の決算概要	8
○後期高齢者医療特別会計の決算概要	9
○住宅団地造成事業特別会計の決算概要	10
○工業団地造成事業特別会計の決算概要	11
○水道事業会計の決算概要	12
○下水道事業会計の決算概要	13



写真でみる主な実施事業

栗山町第7次総合計画に基づく令和7年度事業実施結果の一部を紹介	15
---------------------------------	----



グラフでみるまちの財政状況

○基金残高の推移	22
○町債残高の推移	23
○財政健全化法に基づく指標からみた財政の健全化状況	24

参考

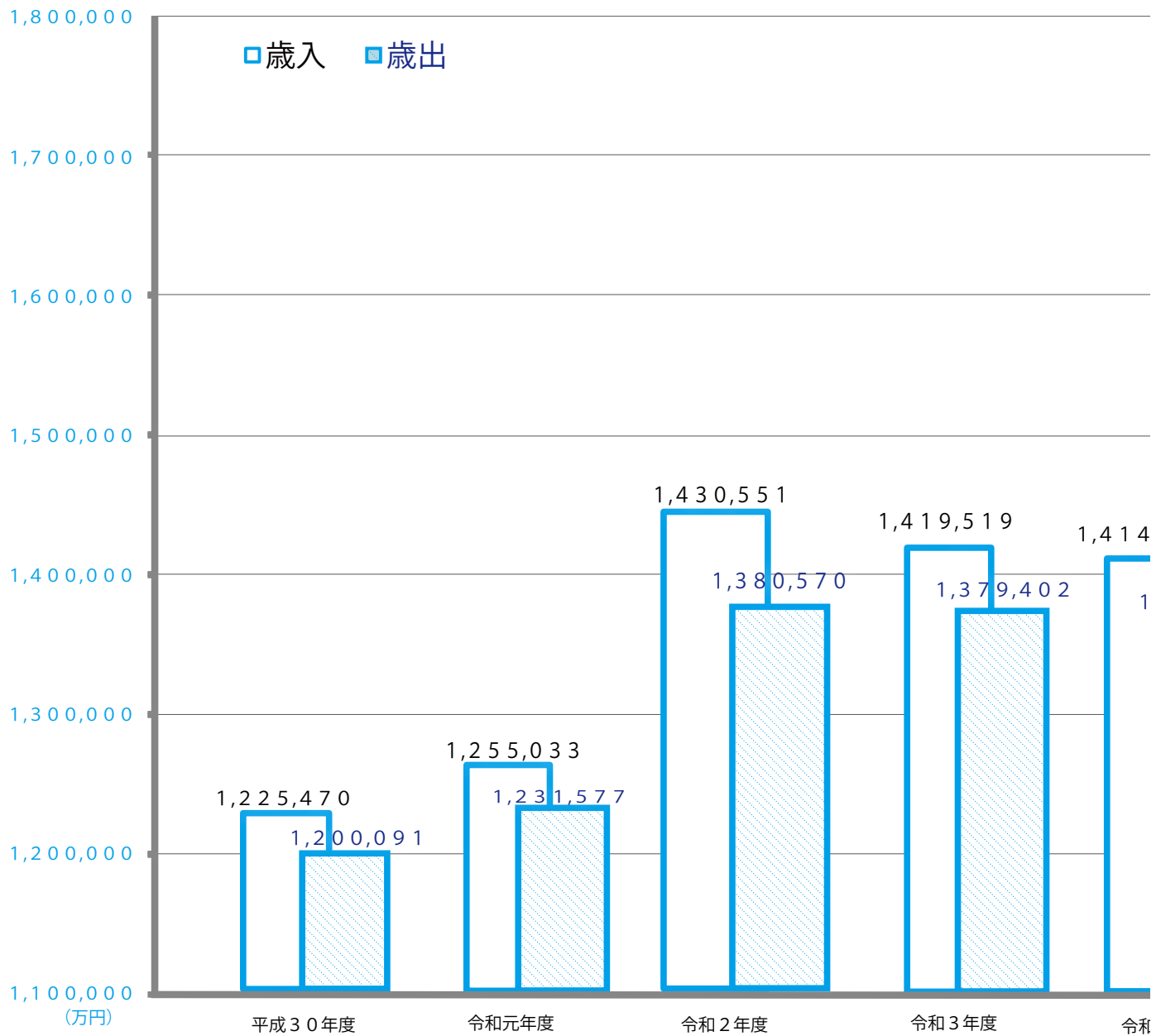
南空知9市町の令和6年度普通会計決算概要	25
----------------------	----



グラフでみる

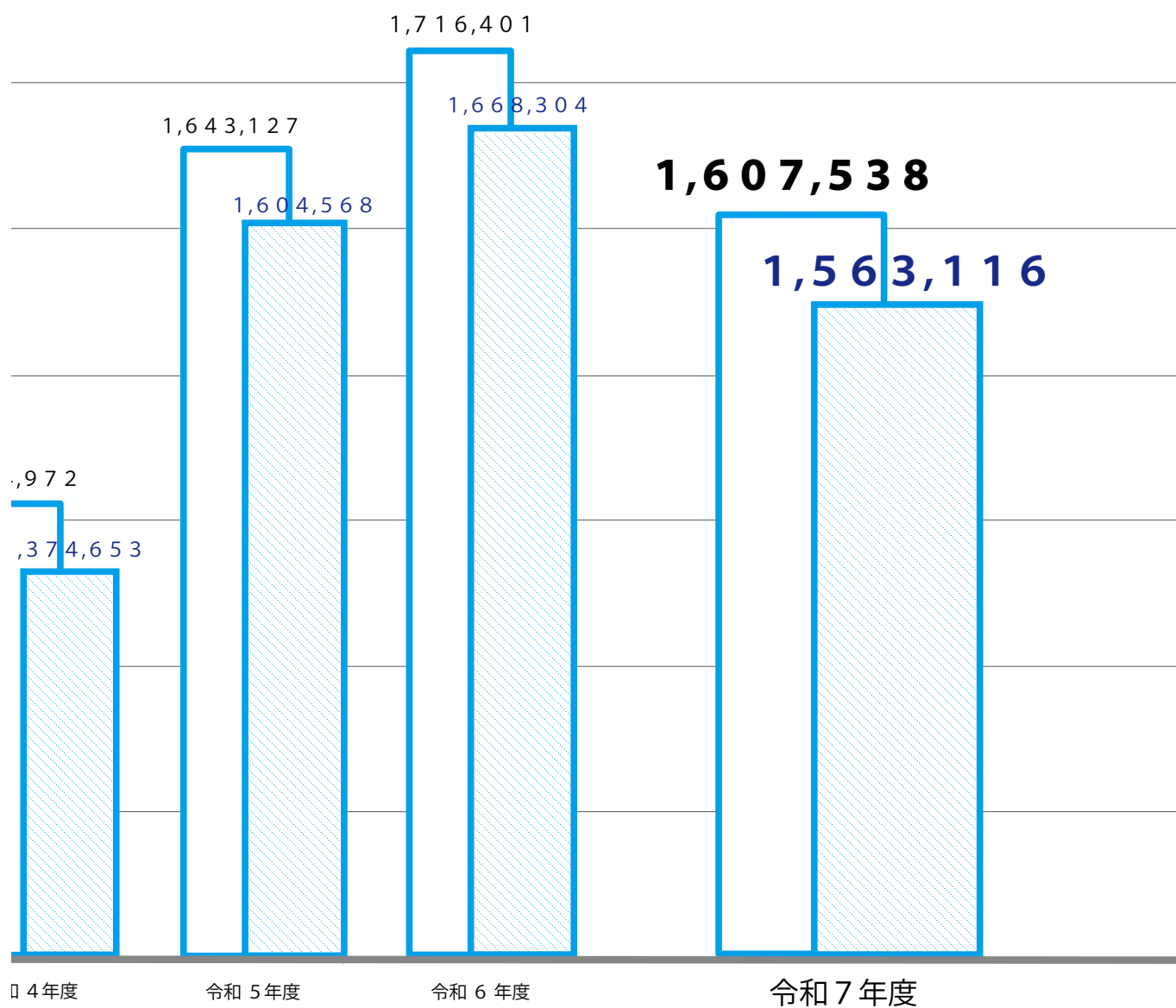
決算概要

全会計の決算概要と推移



令和7年度の一般会計・特別会計（国民健康保険特別会計、北海道介護福祉事業特別会計、工業団地造成事業特別会計）・企業会計（水道事業会計、下水道企業会計を除いた会計の令和7年度決算総額は、歳入で160億7,538万10億5,188万円の減）となりました。

※企業会計（水道事業・下水道事業）を除いた
全会計の合計値です。



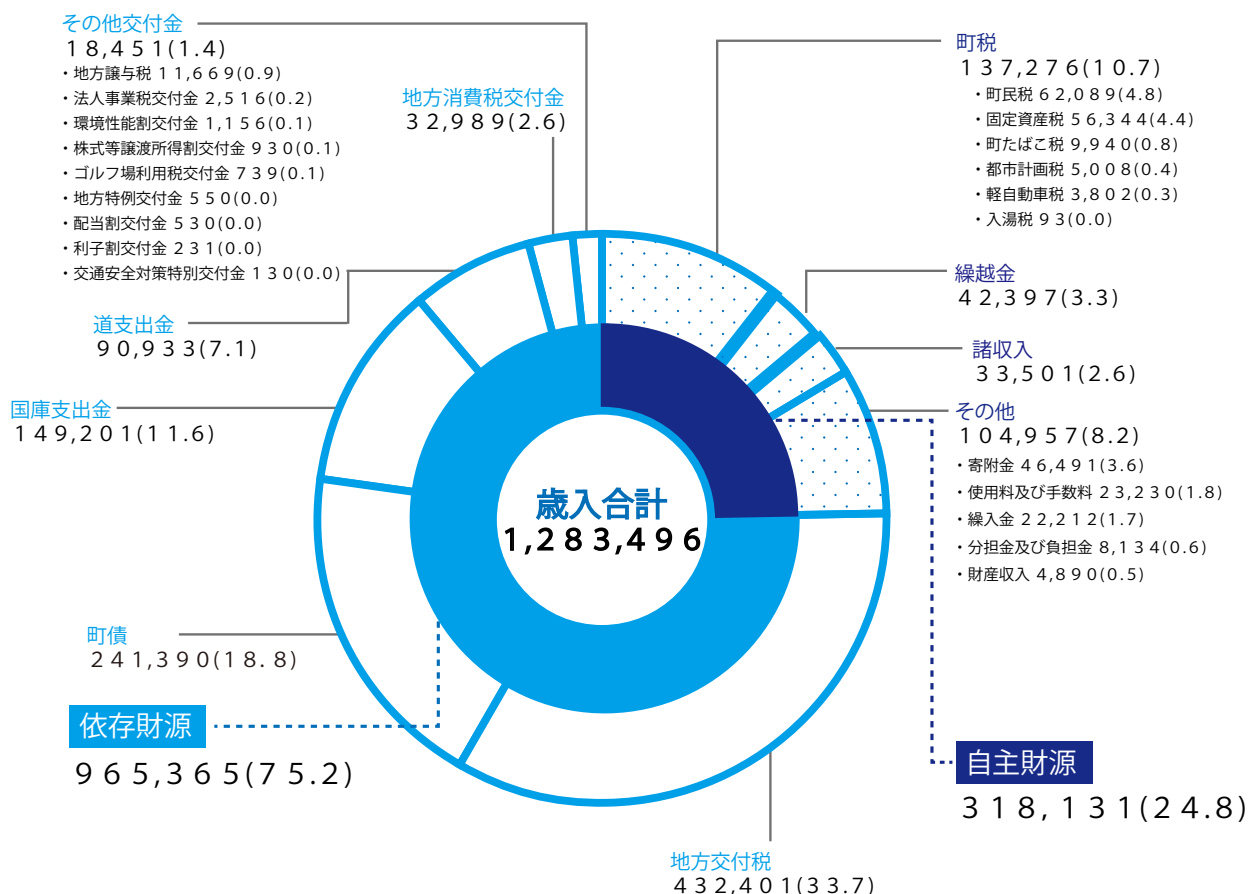
学校特別会計、介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、住宅団地造成
事業会計）の決算が、9月議会定例会議で認定されました。

円（前年比10億8,863万円の減）。歳出で156億3,116万円（前年比

一般会計の決算概要

※単位は万円

() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額より算出しているため端数が合わない場合があります。



歳入総額は128億3,496万円。

前年比10億7,562万円の減。

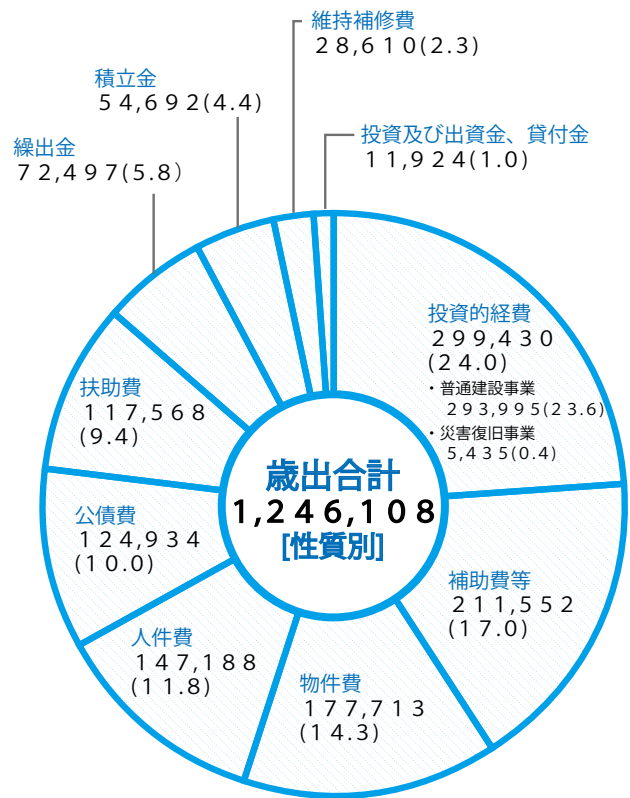
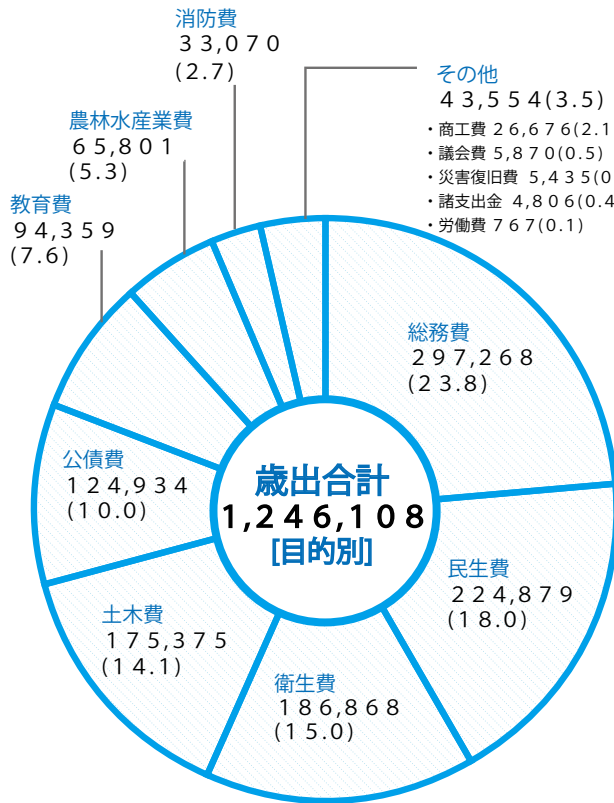
一般会計とは行政運営の基本となる会計で、福祉や教育、消防などまちづくりに広く関わる事業における会計です。歳入（収入）総額は128億3,495万7,440円、歳出（支出）総額は124億6,108万3,552円となり、差額の3億7,387万3,888円を次年度に繰り越しました。

なお、繰越額の中には、次年度に実施する事業財源4,936万7,000円が含まれているため、実質収支は3億2,450万6,888円になりました。

※単位は万円

() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額

より算出しているため端数が合わない場合があります。



歳出総額は124億6,108万円。

前年比10億2,552万円の減。

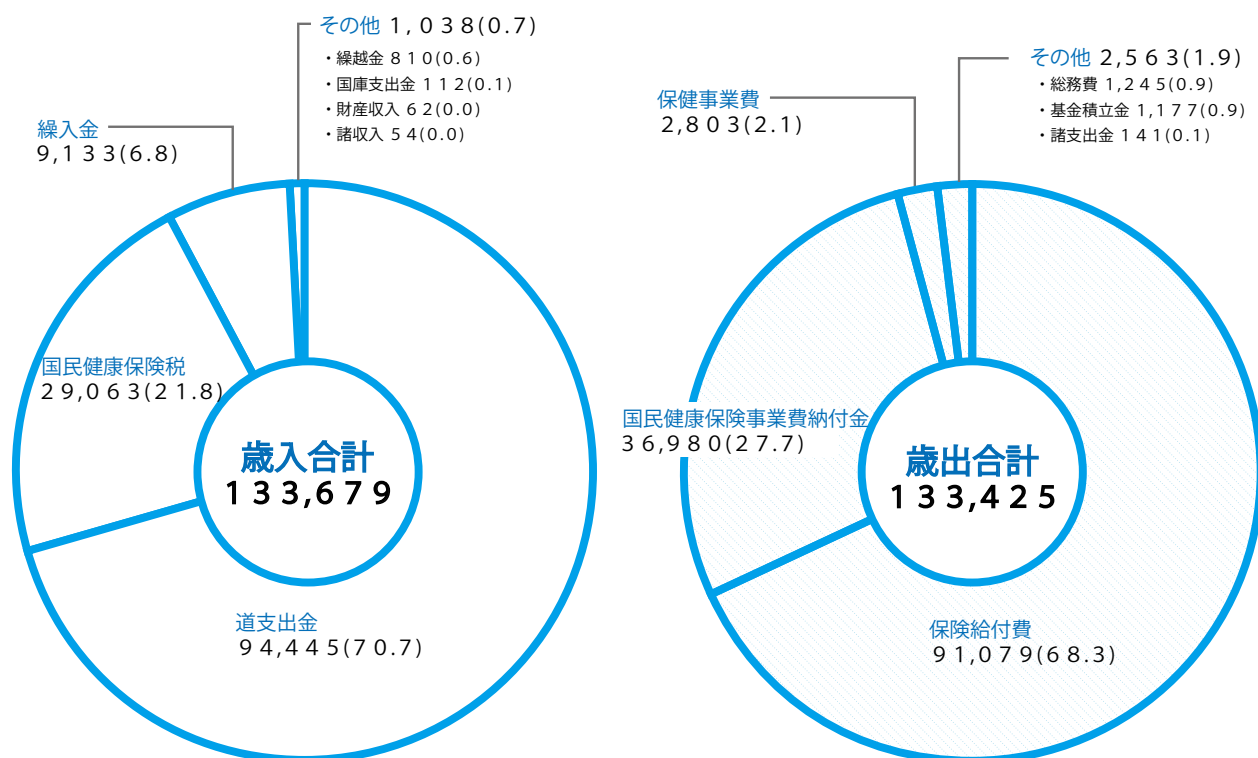
歳入は、町債の減などにより、前年度比で約10億7,562万円の減となりました。歳入全体の構成は町税や使用料など、町が独自に確保している自主財源の割合が24.8%、地方交付税や国・道からの交付金などの依存財源の割合が75.2%となりました。

歳出は、前年度比で約10億2,552万円の減となりました。増減が大きい費目としては、衛生費が約18億445万円の減、総務費が約4億1,601万円の増となりました。歳出全体の構成は、総務費が最も多く、次に民生費、衛生費と続いています。

国民健康保険特別会計の決算概要

※単位は万円

() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額より算出しているため端数が合わない場合があります。



歳入13億3,679万円。歳出13億3,425万円。
254万円を翌年度に繰り越しました。

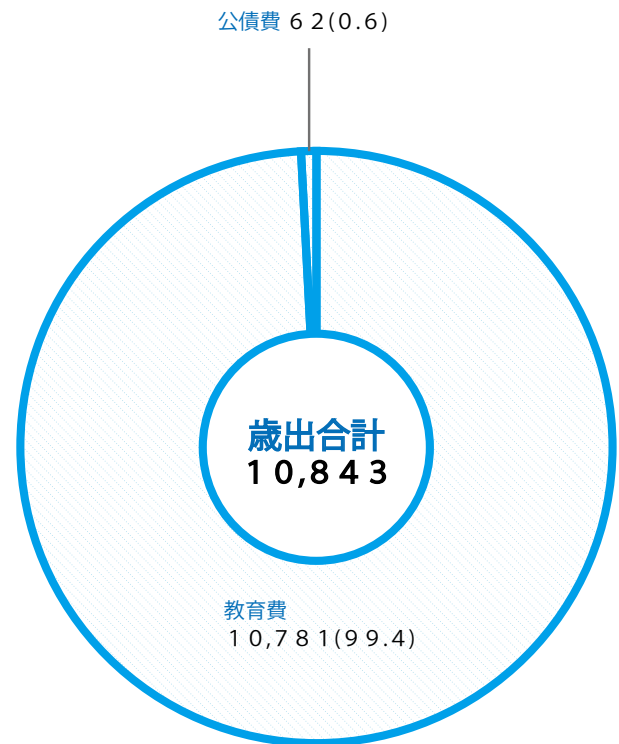
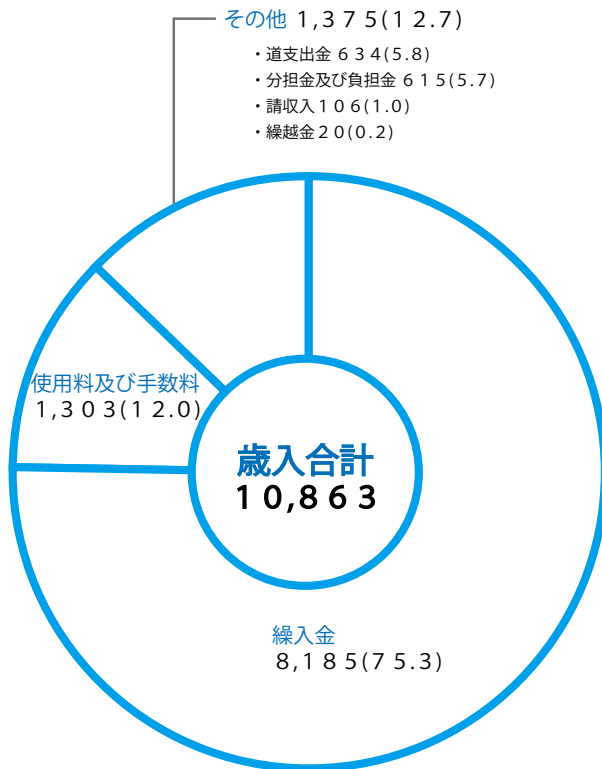
国民健康保険特別会計とは、国民健康保険事業の円滑な運営とその経理の適正を図るため、一般会計と区分された会計です。

令和7年度末の国民健康保険に加入している世帯数は1,428世帯、被保険者数は2,260人で、町民の健康保持と増進のため保険給付を行い、医療保障の充実に努めました。

北海道介護福祉学校特別会計の決算概要

※単位は万円

() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額より算出しているため端数が合わない場合があります。



歳入 1 億 8 6 3 万円。歳出 1 億 8 4 3 万円。
2 0 万円を翌年度に繰り越しました。

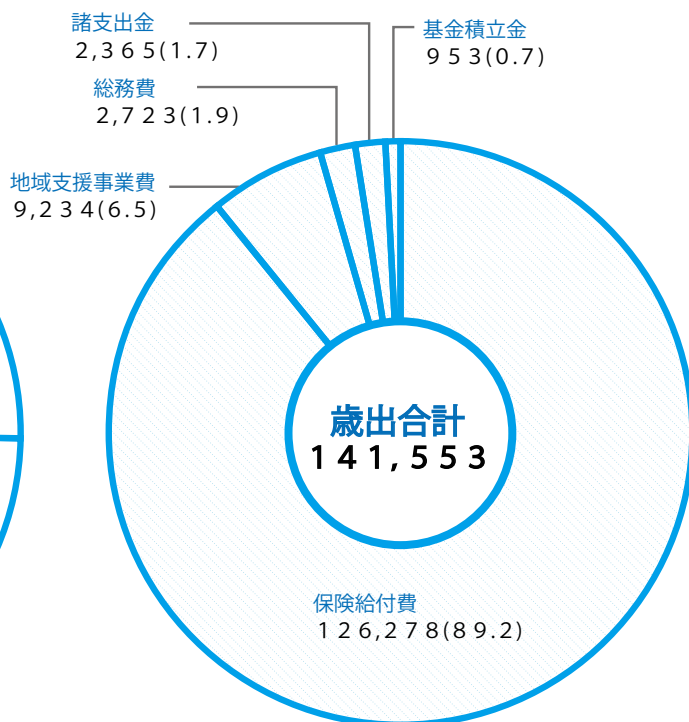
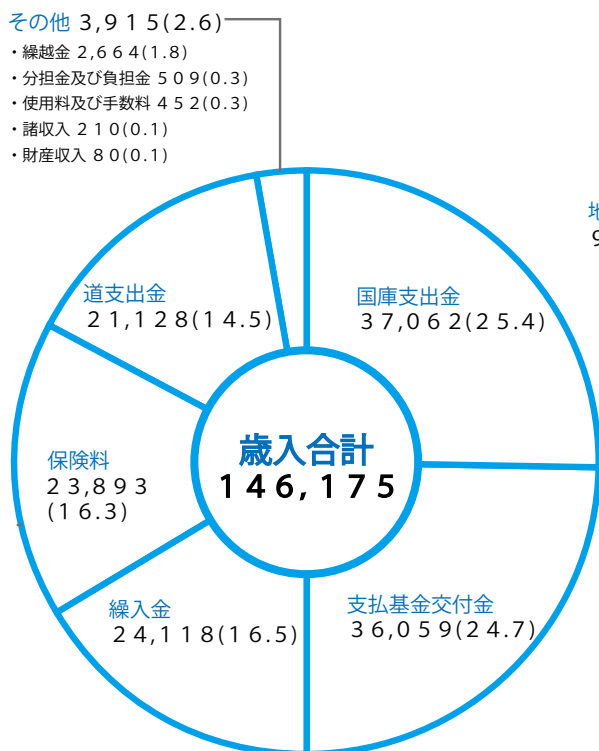
北海道介護福祉学校特別会計とは、町立北海道介護福祉学校の運営のため、一般会計と区分された会計です。

社会情勢などにより入学者数は定員数に満たないものの、介護福祉士人材の求人数は堅調で、開校以来 37 年連続就職率 100% を達成しました。

介護保険特別会計の決算概要

※単位は万円

() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額より算出しているため端数が合わない場合があります。



歳入14億6,175万円。歳出14億1,553万円。
4,622万円を翌年度に繰り越しました。

介護保険特別会計とは、介護保険事業の円滑な運営とその経理の適正を図るため、一般会計と区分された会計です。

適正な要介護認定を行うとともに、要介護・要支援者が能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう保険給付を行い、福祉の増進に努めました。

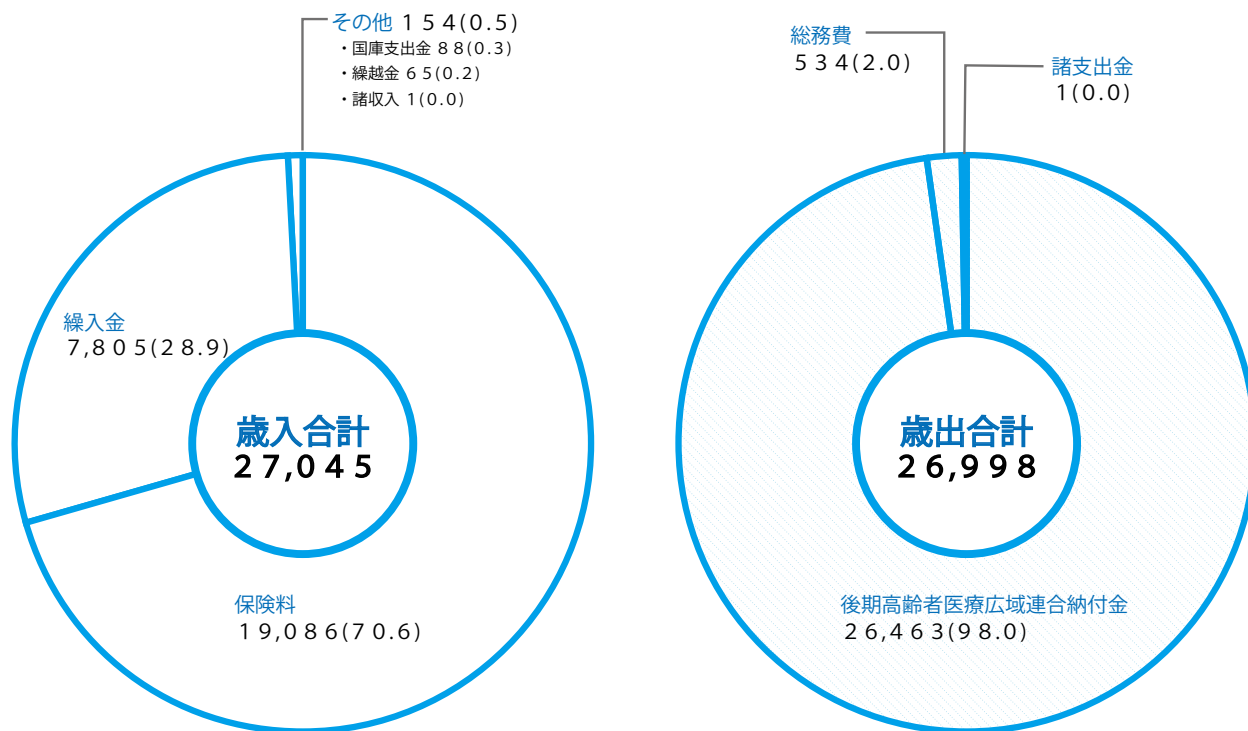
また、将来に要介護・要支援状態になるおそれのある高齢者を対象に、介護予防を推進しました。

後期高齢者医療特別会計の決算概要

※単位は万円

() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額

より算出しているため端数が合わない場合があります。



歳入2億7,045万円。歳出2億6,998万円。
47万円を翌年度に繰り越しました。

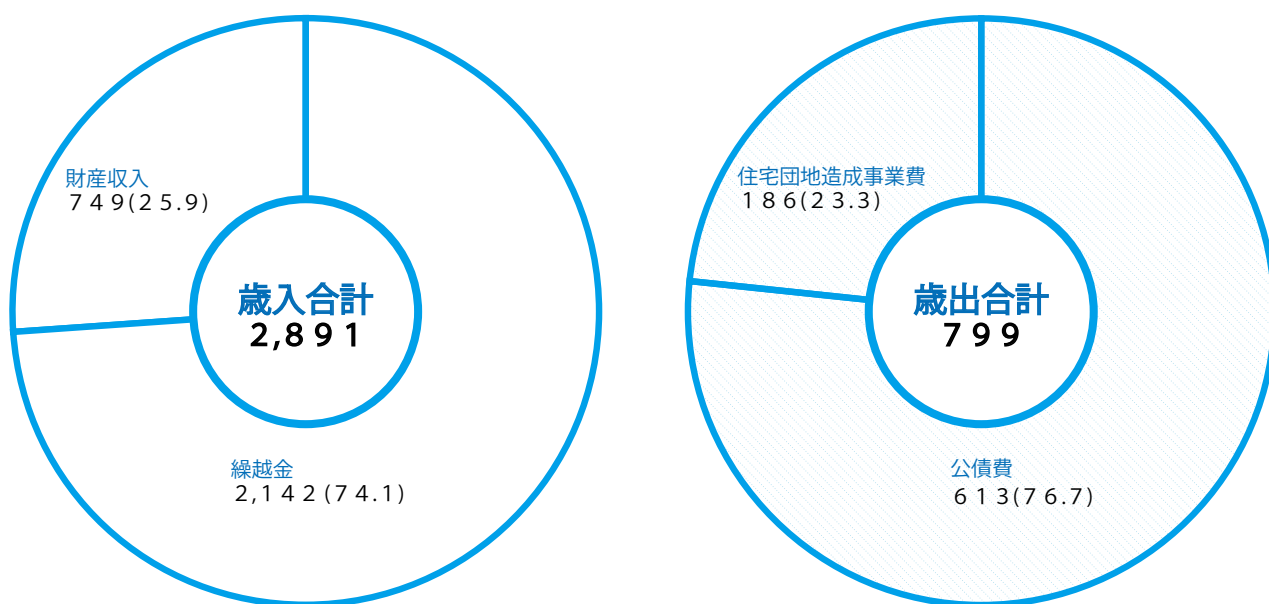
後期高齢者医療特別会計とは、後期高齢者医療事業の円滑な運営とその経理の適正を図るため、一般会計と区分された会計です。

北海道後期高齢者医療広域連合が主体となって運営していますが、本町では高齢者の健康保持と増進のため、被保険者の資格管理の窓口事務や保険料の徴収などを行い、医療費の適正化に努め、健全な医療給付を進めました。

住宅団地造成事業特別会計の決算概要

※単位は万円

() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額より算出しているため端数が合わない場合があります。



歳入2,891万円。歳出799万円。
2,092万円を翌年度に繰り越しました。

住宅団地造成事業特別会計とは、住宅団地造成事業を実施するため、一般会計と区分された会計です。

平成27年10月より分譲を開始した朝日4丁目住宅団地第4期（全19区画）は、令和7年度末までに18区画を販売しました。

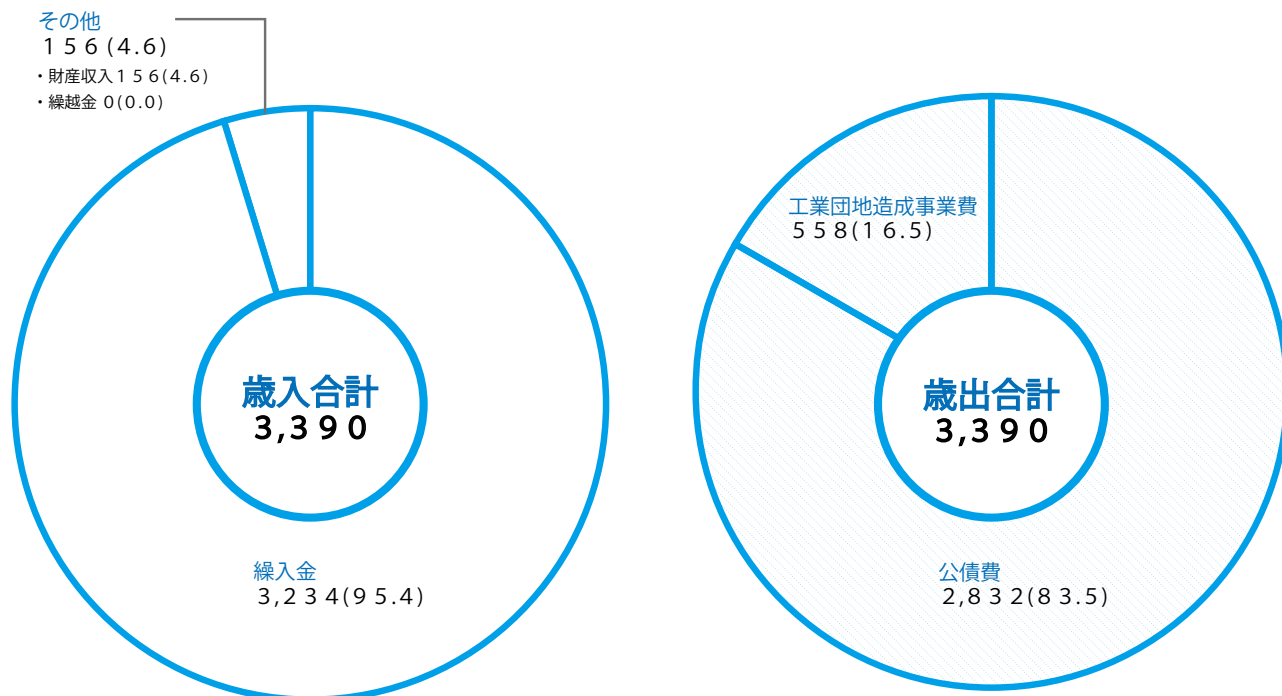
令和6年4月より分譲を開始した中里住宅団地第1期（全20区画）は、令和7年度末までに9区画を販売しました。

工業団地造成事業特別会計の決算概要

※単位は万円

() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額

より算出しているため端数が合わない場合があります。



歳入 3,390 万円。歳出 3,390 万円。

工業団地造成事業特別会計とは、工業団地造成事業を実施するため、一般会計と区分された会計です。

平成30年度より分譲を開始した第4期工業団地（全7区画）は、令和7年度末までに3区画を賃貸借、2区画を販売しました。

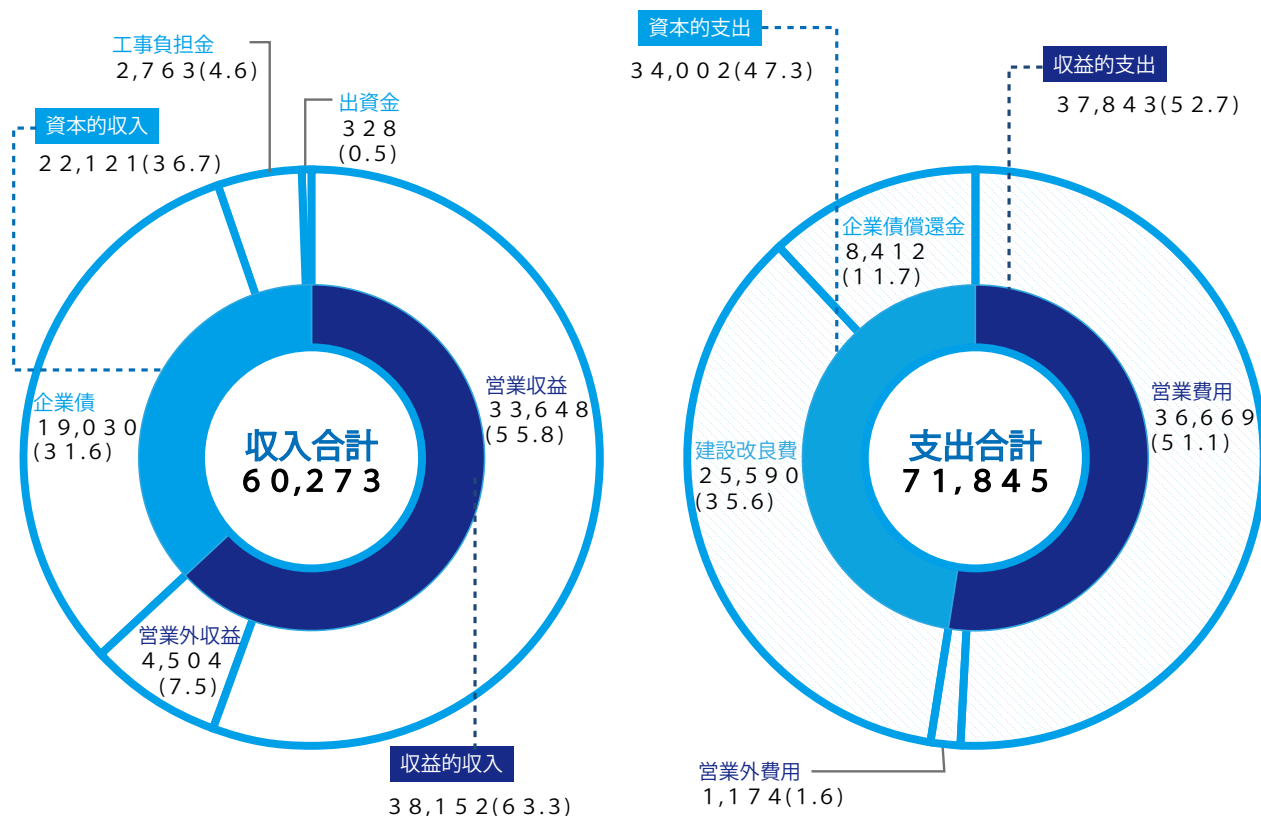
また、令和8年度から分譲開始する第5工業団地の販売に向けた準備を進めました。

水道事業会計の決算概要

※単位は万円

() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額

より算出しているため端数が合わない場合があります。



収入6億273万円。支出7億1,845万円。

会計処理上の不足額は損益勘定留保資金などで補てん。

水道事業会計とは、水道事業を運営するため企業会計によって区分された会計です。

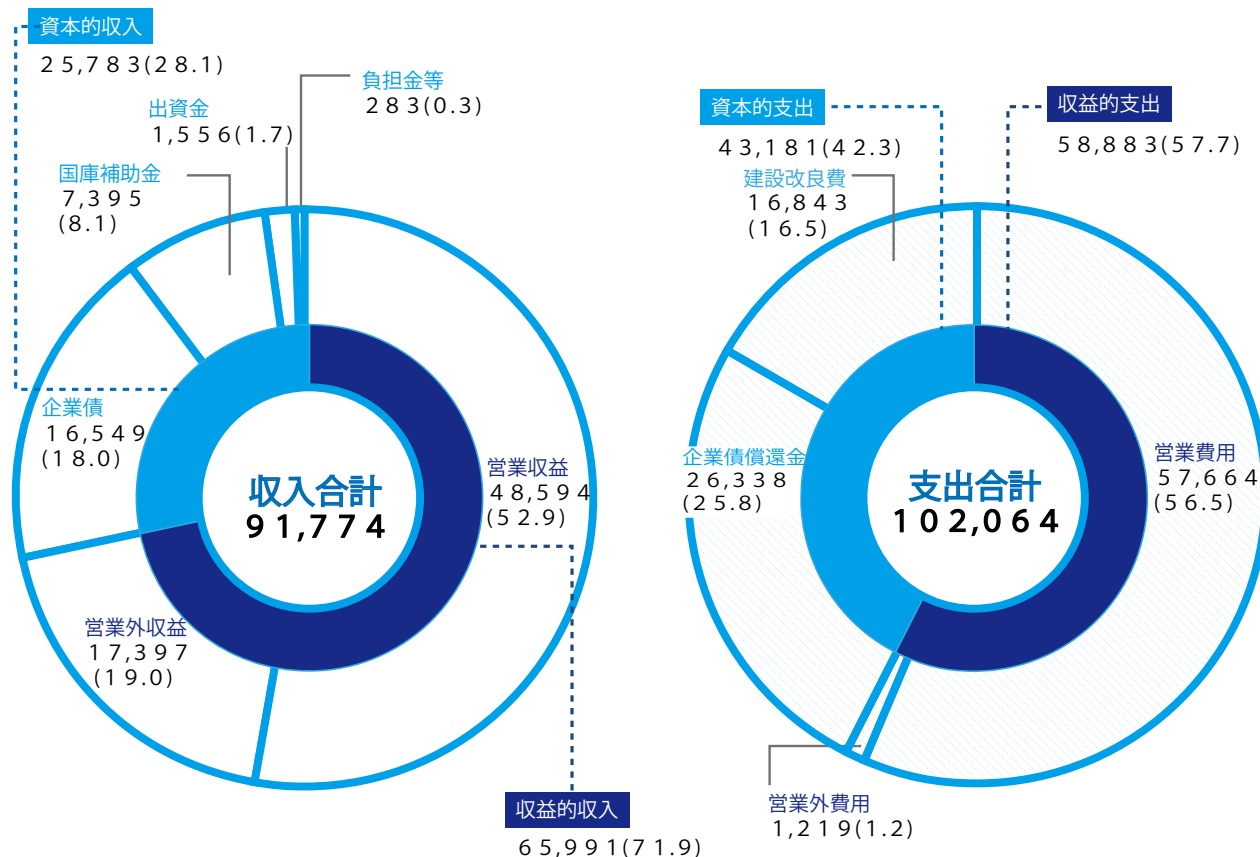
水をつくり家庭などに届けるための経費（収益的収支）では差引309万円となりました。浄水場の設備更新や配水管の整備などに使用するための経費（資本的収支）では1億1,881万円の不足となりました。

不足額については、減価償却費など収益的支出のうち現金の支出を必要としない費用によって生じた資金（損益勘定留保資金など）で補てんしました。

下水道事業会計の決算概要

※単位は万円

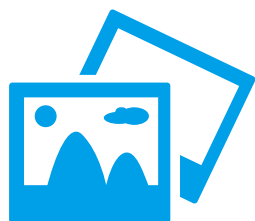
() 内は構成割合で単位は%。円単位の決算額より算出しているため端数が合わない場合があります。



収入 9 億 1,774 万円。支出 10 億 2,064 万円。
会計処理上の不足額は損益勘定留保資金などで補てん。

下水道事業会計とは、下水道事業を運営するため企業会計によって区分された会計です。下水道管や下水道管理センターの維持管理に必要な経費（収益的収支）では差引 7,108 万円となりました。下水道管や下水道管理センターの設備更新や取り替えなどに使用するための経費（資本的収支）では 1 億 7,398 万円の不足となりました。

不足額については、減価償却費など収益的支出のうち現金の支出を必要としない費用によって生じた資金（損益勘定留保資金など）で補てんしました。



写真でみる

主な実施事業

栗山町第7次総合計画に
基づく令和7年度事業
実施結果の一部を紹介

※栗山町第7次総合計画に掲載されている計画事業番号、事業名、決算額及び、事業に関連した写真を掲載しています。

計画
事業
154

生物多様性の保全を普及推進します。



(サケの稚魚放流会の様子)

決算額 802 千円

計画
事業
9

現場活動する隊員の安全を守るため、
装備品を整備、更新します。

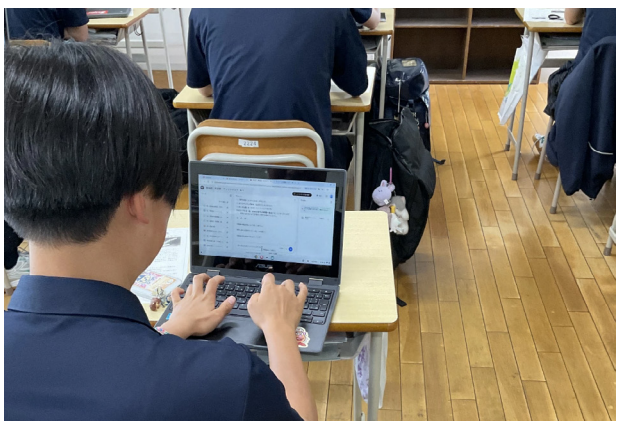


(更新した消防用空気ボンベ)

決算額 1,848 千円

計画
事業
18

学校教育における ICT の利活用を推
進します。



(令和7年度に更新した ICT 端末を使用した授業)

決算額 61,599 千円

計画
事業
34

食育事業等を通じて子ども達に食に
対しての正しい知識や理解を深めま
す。



(地元食材を使った「ふるさと給食」を食べている子どもたちの様子)

決算額 50 千円

計画
事業
36

学校経営基盤の確立を図り、超高齢社
会を支える優れた介護福祉士を養成
します。



(福祉先進国フィンランドとの交換留学事業)

決算額 103,943 千円

計画
事業
41

栗山高校「魅力化ビジョン (案)」を
推進します。



(栗山高校女子野球部の活動の様子)

決算額 22,963 千円

計画
事業
54

生涯スポーツを推進します。



(くりやまハーフマラソンの様子)
決算額 10,888 千円

計画
事業
56

町民が芸術文化に親しむ環境づくりと
芸術創造のまちづくりを推進します。



(札響ひなまつりコンサートの実施)
決算額 5,025 千円

計画
事業
60

姉妹都市（宮城県角田市）、被災地な
どとの青少年交流事業を実施します。



(姉妹都市交流子ども交歓のつどいの実施)
決算額 1,490 千円

計画
事業
63

町民や地域・関係機関・企業と協働し、
町全体で健康づくりを支え守るため
の環境づくりを整備します。



(ベジチェック（推定野菜摂取量測定器）を使った健康
推進事業)
決算額 1,747 千円

計画
事業
67

栗山赤十字病院改築事業を推進します。



(令和7年11月4日に開院した栗山赤十字病院)
決算額 1,300,000 千円

計画
事業
86

多彩な人材の確保・定着を推進します。



(新規就農者相談会の様子)
決算額 35,610 千円

計画
事業
93

スマート農業を推進します。



(農業散布用無人航空機導入の支援)

決算額 7,676 千円

計画
事業
100

賑わいにあふれ魅力ある商店街づくりを推進します。



(令和7年度に導入したくりやまネイポジボカード)

決算額 11,449 千円

計画
事業
104

ファブラボ栗山を運営し、ものづくりを通じた「まちの未来を開拓する担い手」づくりを推進します。



(ファブラボ栗山でのものづくり体験ワークショップの実施)

決算額 16,456 千円

計画
事業
107

「くリエイトするまち栗山町」の地域ブランドイメージを活かし、関係人口となる「ひと」を呼び込みます。



(札幌ベルエポック製菓調理専門学校との「食の交流事業」)

決算額 4,560 千円

計画
事業
111

老朽化した橋梁の点検・修繕を計画的に実施します。



(朝日橋補修工事)

決算額 81,384 千円

計画
事業
113

町道の道路環境の維持・向上を図ります。



(緑町通り補修工事)

決算額 277,904 千円

計画
事業
115

地域公共交通の維持・確保と利便性の向上を図ります。



(維持・存続に向けた利用促進の取り組みを実施しているJR室蘭線) 決算額 12,467 千円

計画
事業
116

町営バスの運行により、交通弱者の移動手段を確保します。



(令和7年度に購入した北広島循環線のデマンドバス) 決算額 103,445 千円

計画
事業
119

公営住宅の整備・改修を実施します。



(新築した中里団地) 決算額 581,359 千円

計画
事業
132

町民主体の地域づくり活動を支援します。



(ときわ・みなみ中里協議会防災総合訓練の様子) 決算額 4,029 千円

計画
事業
146

くりやまの情報を収集・発信する体制をつくり、町民との情報共有や町外への情報発信の充実を図ります。



(コミュニティラジオ放送局での収録の様子) 決算額 34,590 千円

計画
事業
151

職場・地域等における女性活躍、男女共同参画を推進します。



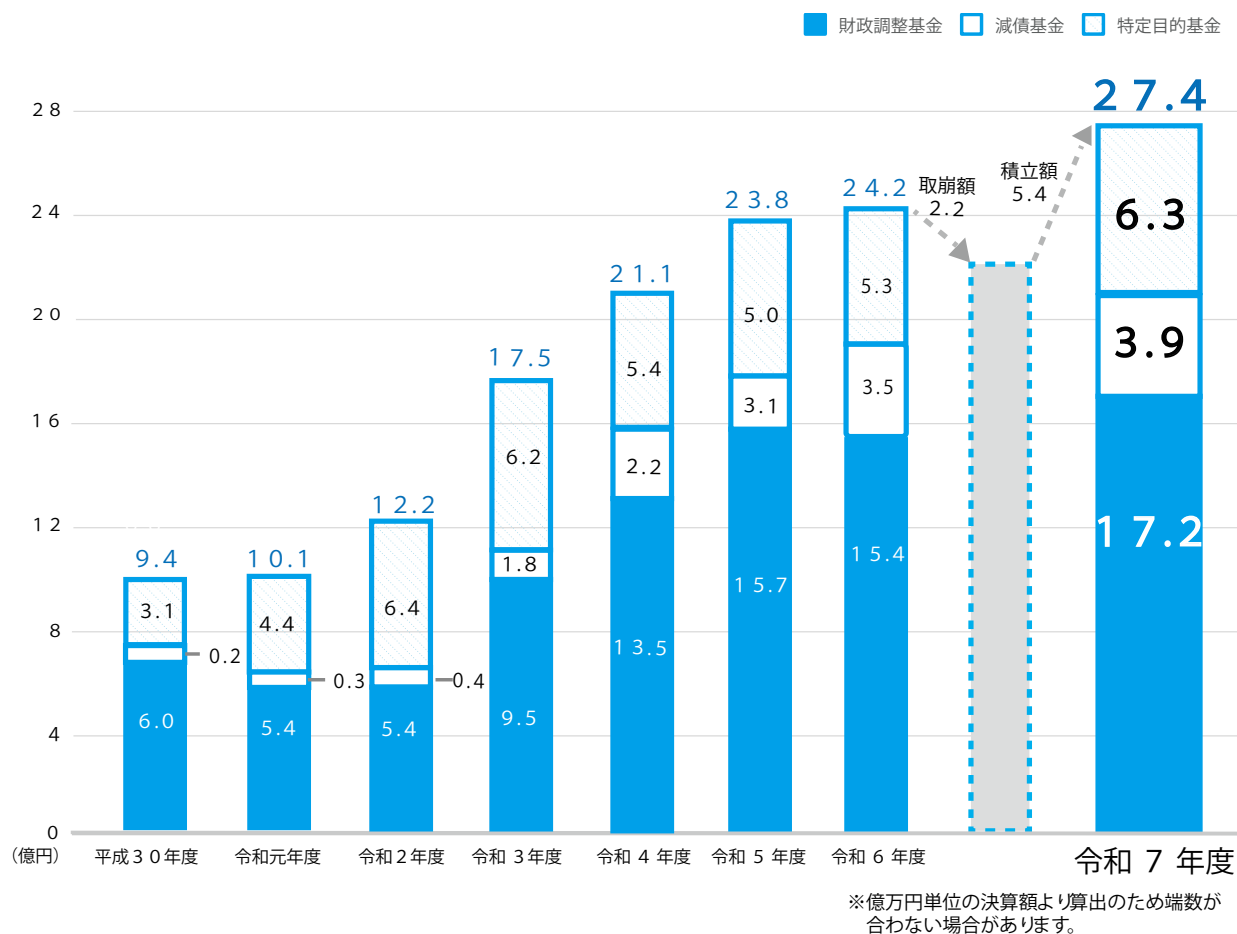
(LGBTQ+ 啓発パンフレット) 決算額 292 千円



グラフでみる

まちの財政状況

基金残高の推移（一般会計）



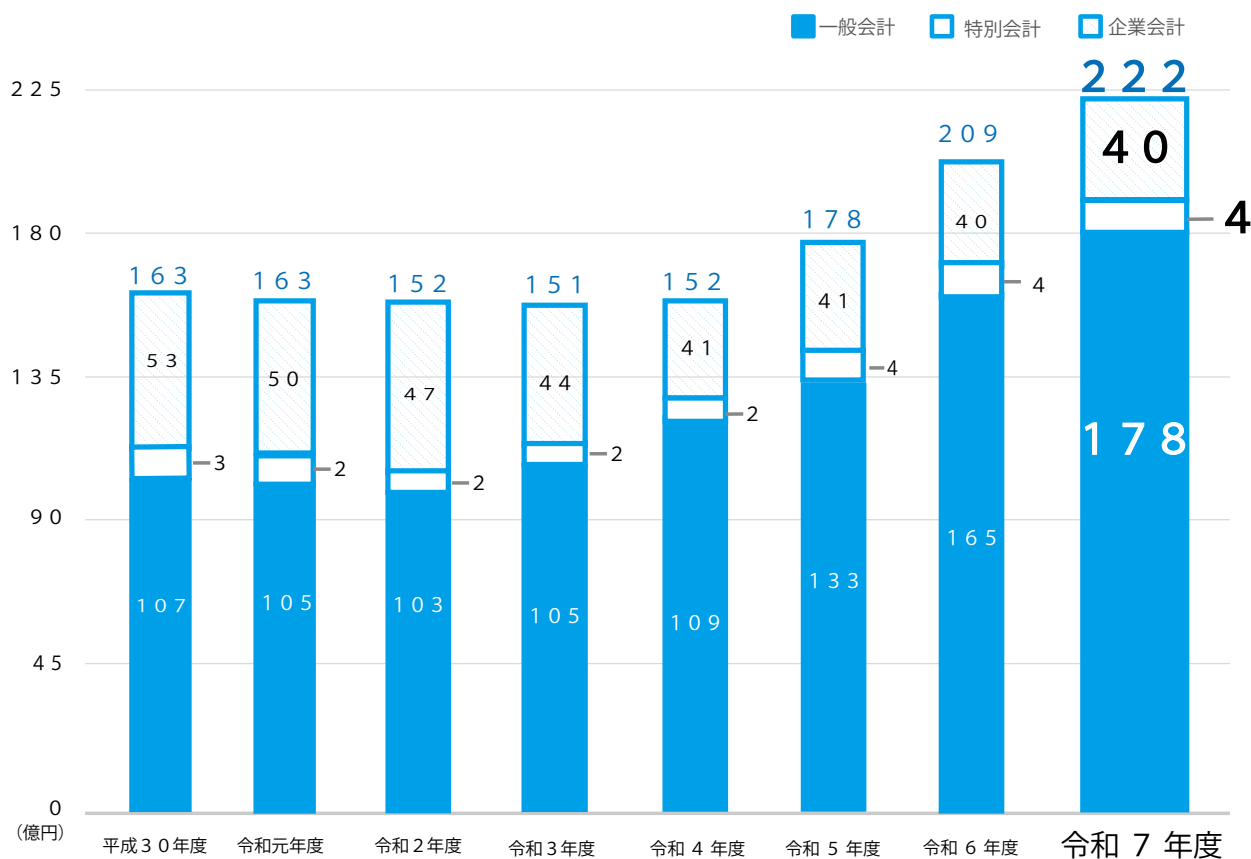
基金の年度末残額は27億4,082万円。
前年比3億2,518万円の増になりました。

安定した財政運営を進めるための貴重な財源として、決算に伴う余剰金の一部や、寄附金などを原資として積み立てた基金の年度末残高は、一般会計分で27億4,082万円になり、前年度比で3億2,518万円の増となりました。

なお、令和7年度における取り崩し額は2億1,999万円で、積み立て額は5億4,717万円です。

一時借入金の年度末残高は7億円でしたが、出納整理期間中に全額を返済しております。

町債残高の推移（全会計）



町債の年度末残高は222億763万円。
前年比12億9,023万円の増になりました。

町債（町の借入れ金）には、毎年の財源負担を平均化する役割と、現在と将来の町民負担を公平にする役割があり、町では財政状況を悪化させないように、町総合計画等に基づき、計画的な借入れを行っています。

町債の年度末残高は全会計分で222億763万円となりました。栗山赤十字病院改築等事業に係る町債の借入等により、前年比で12億9,023万円の増となりました。

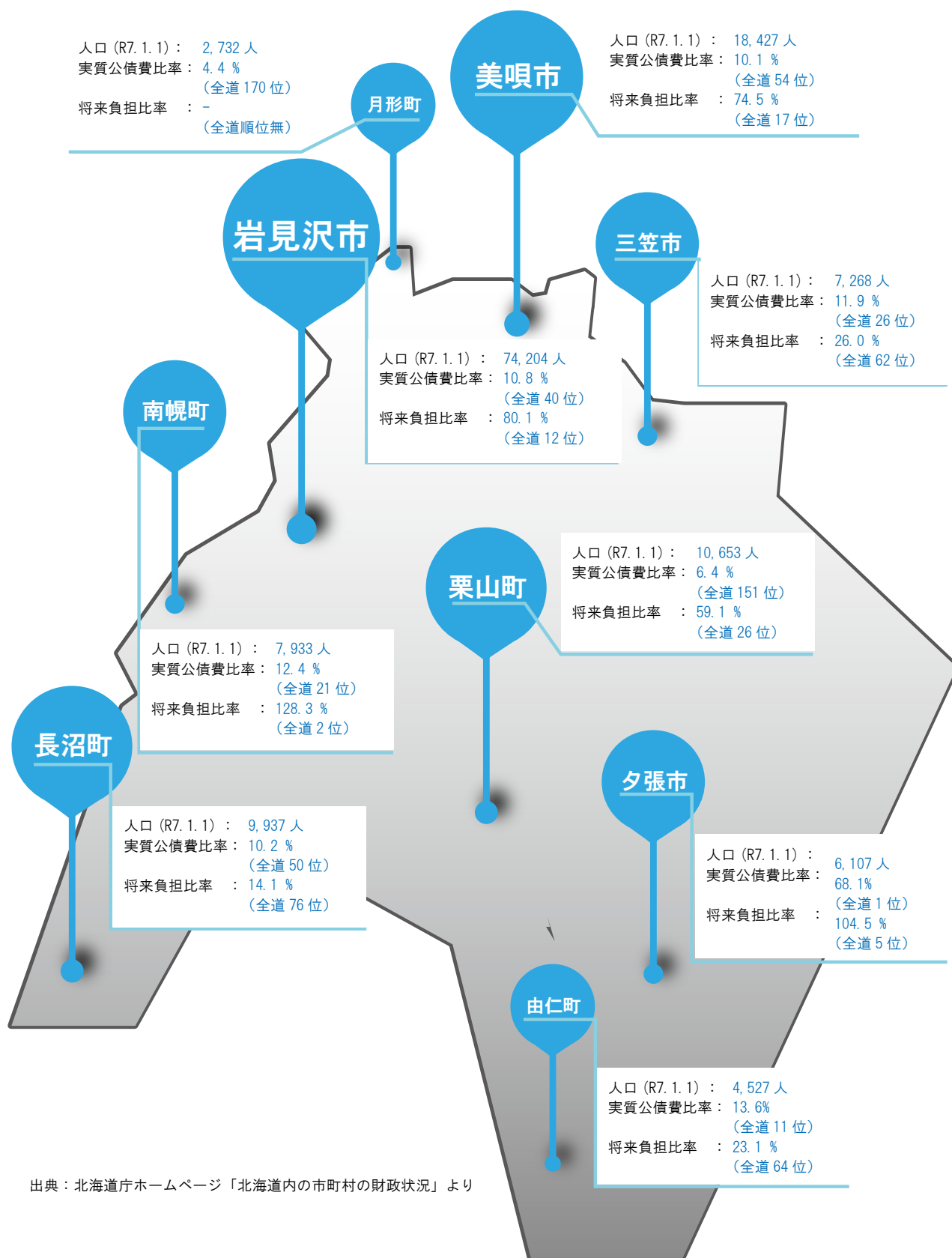
財政健全化法に基づく指標からみた財政の健全化状況

指 標		指標の説明	栗山町 比 率 (R 7 決算)	全道市町村 の平均 (R 6 決算)	基準値	
					早期健全化 基 準	財政再生 基 準
健全化判断比率	実質赤字比率	一般会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率	該当無	基準値以上の団体無	14.75%	20%
	連結実質赤字比率	全会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率	該当無	基準値以上の団体無	19.75%	30%
	実質公債費比率	一般会計が負担する元利償還金などの標準財政規模に対する比率	6.2%	7.2%	25%	35%
	将来負担比率	一般会計が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率	57.8%	16.6%	350%	
資金不足比率 (水道・下水道事業、住宅団地・工業団地造成事業)		資金不足額(赤字額)の事業規模に対する比率	該当無		20%	

まちの財政は「健全基準」にありますが、
依然として厳しい財政状況が続いています。

財政の健全さを計る指標を導入し再建の枠組みを定めた「財政健全化法」に基づき、町の財政状況を分析しています。

実質公債費比率、将来負担比率とも健全基準にはありますが、引き続き将来世代に大きな負担を残すことのない財政運営に努めていく必要があります。



出典：北海道庁ホームページ「北海道内の市町村の財政状況」より

本冊子は、令和７年度の決算概要をご理解いただくため、要点を絞り作成しました。

詳しい内容については、資料編「令和７年度主要な施策の成果表」及び「令和７年度各会計決算書」をご覧ください。

なお、お寄せいただいたご意見、ご感想などを次年度の冊子作成の際の参考とさせていただきます。

町の財政情報を的確に、そして、分かりやすくお知らせしていくためのご意見などをお待ちしております。

発 行 / 栗山町

発行日 / 令和８年１０月

編 集 / 企画財政課財政グループ

〒０６９－１５１２ 北海道夕張郡栗山町松風３丁目２５２番地

ＴＥＬ：０１２３－７３－７５０３（直通） ＦＡＸ：０１２３－７２－３１７９（代表）

ＷＥＢ：<https://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/> ※ホームページにも本冊子の内容を掲載しています。